
神子と夜空は

月華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神子と夜空は

【ノーノード】

N2995P

【作者名】

月華

【あらすじ】

金の髪に銀の瞳。それを持つ者は神子だと、そう言い伝えられていた。

少しずつ、神子であるレイは外に出れるようになつていった。騎士であるセキリとも、幸せな日々を送つていてるレイの、ほんの一部の短い幸せな出来事の物語。

(前書き)

神子の話です。

神子の想いはから、一年後の物語です。

金の髪に、銀の瞳。

それを宿す者は、神子だと、

そう、言い伝えられてきた。

神子は、死なせてはならない。

大事に、大事に

誰にも、なににも、染められてはならぬ、と

世界が産まれてから、ずっと、ずっと、そう伝えられてきた。

その伝承は、少しずつ、しかし確実に崩れ

神子は幸せを手にするだろう

あれから、一年の歳月さいげつがすぎた。レイは少しずつ、外にでることを赦されるようになった。セキリを助ける時は、無我夢中に走つていたので、外の風景に目を向けることなんてしていなかつたため、初

めて城にいく道以外の外の世界に、レイは胸が躍った。

今日も、少し外に出た。噴水のある公園で一休みして、ミオと共に神殿に帰った頃にはもう、夕方から夜への境目だった。

レイは、門を見た。

最近、セキリは仕事で忙しく、神殿に来ていない。だから、レイは外に出ていたのだ。セキリの仕事に余裕ができたら、一人で外に散歩に行きたかったのだが。

すると、門が音をたててあいた。元々この神殿は少し古びている。門は得に古びている。

「レイ」

門から入ってきたのは、青年だった。レイは目を見開いて、青年に駆け寄る。

「セキリ！」

動きにあわせて、金の髪が揺れる。セキリの懐かしい声と、優しげな翡翠の瞳に、涙が出そうになった。

「久しぶり」

セキリは微笑んで、頭一つ下のレイの視線にあわせるように微笑んだ。

セキリは今年で21になる。レイも今年で、19だ。身長は確かに伸びているはずだが、セキリも相変わらず伸びていて、あつたときから身長差は変わらない。

「どうしたの？仕事は・・・」

「今日は少なかつたんだよ」

そういうつて、セキリはレイの後ろにいたミオに微笑んだ。

「ミオさん、ちょっとレイ借りますよ」

「ええ。どうぞ。」自由に」

セキリの言葉に、ミオは楽しそうに微笑む。しかし、その顔はいた

ずらな顔に変わった。

「ただし、一時間だけですから。門限は厳しいですよ」

「はい。わかりました」

完全に会話について行けないレイは、田を丸くし、セキリとミオを交互に見つめる。

会話が一段落すると、セキリはレイにまた微笑んだ。

「え？」

次の瞬間、レイの脇にセキリの腕がはいり、軽々と持ち上げられる。横抱き、世に言つ『お姫様ダッ』とこりやつだ。自然と頬が赤くなる。

「セ・・・セキリ！？」

「じゃ、いつできま^すす」

セキリは音もなく跳躍^{へや}すると、門を飛び越えた。レイは田を見開く。

「ちよ・・つえー・・・」

最後のまつりつぶやきはやや諦めがある。レイはなにがなんだかわからず、セキリに身を任せのしかなかつた。

数分すると、セキリがレイをまつりつと地におろした。レイとセキリは今、町より少しはずれた丘にいる。

「いじは・・・？」

「レイ、ほら見てみて」

セキリはなれた様子で腰を下ろす。レイもそれになら、セキリは手上を指さした。それを視線で追つ。

「あ・・・・」

思わず、つぶやきがもれた。

それは、今まで見たことがないほど、綺麗な夜空だった。

小さく、でも確かに輝いている幾千もの星たち。

セキリは微笑んだ。

「綺麗でしょ？」

レイはセキリの横顔を見つけた。

「ずっと、レイが外に出れるようになつたら、見せようつて思つてたんだ」

セキリの声が、耳朶をつつ。

ひどく穏やかな声だ。

レイは微笑むと、言った。

「ありがとう」

そして、セキリの肩によりかかる。セキリが驚いた気配がしたが、
きにしない。

二人はそのまま、約束の時刻まで夜空を見ていた。

END

(後書き)

想いは、より前に考えていた話を、ようやく投稿しました。
想いは、で、このシリーズは終わりとかかいた後ですが・・・。
とりあえず、この一人はこんな感じで毎日を過ごしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2995p/>

神子と夜空は

2010年12月13日22時18分発行